

之に従つてお祝の歌とおどりに引き續き進行。

(三) 記述

學校のお月見、お家のお月見を、學藝會開催翌日記述させる。之には繪を入れさせるのが一層よい。

(四) 手工

後日、畫用紙の後半の所に月と空を描かせて、折り立たせて、立體的にし、前半を縁側風にかゝせて、玆に紙製の机を立たせる、机には供へ物をかゝせておく。

(五) 數量

「十五夜は、九月一日から幾日目の晩ですか」

時の展覽會作業の指導

永堀千鶴子

「今年の十五夜は何曜日でしたか」

といった問題を、毎日の兒童カレンダーを使用して調査させ、日數の計算、十五夜たる所以を、知識から明かにする。

(六) 直觀

其の後怠らず月の形の變化、明るさの推移に注意させておき、一週間の終り毎に、發表させて見る。

この時教師から三ヶ月、半月、満月の簡単な説話をしつやる。

(1) 作業の動機

六月のカレンダー製作の際に、六月十日は時の記念日と

記入した。そして、時の記念日は、日本で初めて時計の出来た日であると云ふことを説話しておいた。

このよき機會をとらへて、一つの作業題材とすることは

大いに意義のあることである。指導内容をあげてみると時計に關する諸知識、時計の見方、「時刻を守れ」などの道徳方面、自分の日々の生活に於ける時間的關心を持つこと等がある。製作作業に於ける數字指導、文字指導等は勿論の事である。第二學年になれば、更に發展して、時刻と時間の觀念を明らかにし、時間の簡單なる計算等に進めて行くべきである。こゝには大體一年を標準として記すことにする。

(2) 作業の計劃

時の記念日の數日前、先に作つた六月のカレンダーを参照しつゝ、十日が時の記念日なることを想起させる。同時にその由來も説話をくり廻し、記念すべき日なる事を深く感じさせる。それで、私達も何かしませうと云ふ事になり児童と種々相談し、結局教師の豫定してゐた時の展覽會をしようと思ふ事に決定する。そして出品物の相談に入る。「色々の時計を作つてかざる」これが第一聲である。誰も共鳴する。然し時間などにあまり關心を持つことのない子

供等には、それ以上思ひ付きが出ない。教師としては、外に「時刻を守れ」のポスターを作り、日々の生活に於ける時刻しらべ等を豫定してゐる。それでこれらの相談を順次持ちかける。

「私達ばかりでなく、學校中の皆さんに、ちこくなどしい様にしていただく爲にポスターを作つて、その事を書いてはり出させよう」

「先生、『ちこくをするな』つて書けばいゝんでせう」

「えゝ、そうよ。皆さんはもう決してちこくをしないことね。いつも何時に起きたら、學校に間に合ふの」

「私、六時に起きるわ」私、五時だわ」

「あなた方、そんなに早く起きるのだと、夜はよつぽど早く寝るのでせう」

「私、いつも七時半よ」私は八時だわ」

「それぢや朝起きる時や、寝る時をしらべて、それも書いて見ませう。ごはんを食べる時や、學校に来る時、歸る時おやつ、おべんきよう、色んな事するのは何時だか、みんな書いてみませう。そして、みなさんのとくらべてみる

ときつと面白くことよ」

こうして、出品物の計劃が出来た。次に作業の分擔をきめる。入學後僅か二ヶ月故、共同作業はうまく行かぬ。その指導の一端ともして、ポスター作りはおとなりの人と二人共同にする事にする。時計は希望により決定、やはり共同は二人位がよい。時刻しらべの方はその性質上、個人作業となる。

展覽會が丁度六月十日に開催出来る様に、準備に要する日程を豫定してかゝらねばならぬ。

第一日 作業の計劃、時計の直観

第二日 時計作り

第三日 時計のよみ方 ポスター作り

第四日 時刻しらべ 展覽會準備

第五日 (六月十日) 陳列、閲覽、展覽會開催、後片附

(3) 作業の實際とその指導

一、時計の直観

まづ正確なる直観が必要である。各家庭の時計をよく直

観させる外に教師引率して、近所の時計屋に行くことは大いに有効である。少し大きい時計屋であれば、大抵暇な午前中故、よろこんで色々の時計を出して見せてくれる。鳩時計、歌時計などは最も子供の興味あつたものであつた。

二、時計作り

直観にもとづき、時計の製作にかゝる。色々な種類をあげて、各分擔を決める。柱時計等は二人共同にて、相當大きいものを作らせたい。他は個人作業とする。構造は一年程度であればボール箱を利用して立體的に見せかける。半面的に畫いて、後につつかい棒をするかである。指針、振り等は可動的にする方がよい、原紙にて針の形を作り、中心を綴鋸にてとめればよいのである。兒童は完成しない中からぐるぐるまわして大喜びである。

問題は文字盤を畫く事である、圓はコムパスで畫くとしても、數字は一方に寄つてしまつて、適當な位置に書く事は仲々困難である。そこで圖の如く中心に十字を畫き、その線上に3 6 9 12を書き、その間に1 2 4 5……

を書き入れる。この位の等分は出来る。数字のまだよく

書けない者には数字指導をし

なければならぬ事は、勿論で

ある。

其他、鳩時計、目覚時計、

腕時計等は各自工夫して作り

せるところに面白味がある。

一般に小さく作り勝ちであるから、實物大にする様注意

することが必要である。

三、時計のよみ方

自分の作った時計で、針をまわしながら、一時、二時、

三時と示してゆく。教師は教室用大時計にて、一緒に針

をまわしながら、よみ方を指導する。短かい方の針があ

るところの数字をよむと云ふ事を説明すれば、容易に讀

めるものである。一時半、二時半等も同様。その他、自

分の起床、就寝の時刻等にあはしてみる。

一年は大抵この程度のよみでよい。二年になつたら詳

しく分るまで讀める様に導くべきである。

四、ポスター作り

まづポスターの概念をはつきりさせなければならぬ。

當時子供の目につれてゐるポスターを例にしてポスター

は皆の目につく様に、そして分りやすく書かなければな

らない事を注意する。そして何かのポスターを二三直觀

させることは大いに有効である。

各自製作に當つては、まづ書く内容を考へて、繪など

を工夫して取かゝる。(二人共同作業とす)内容は「ジ

コクヲマモレ」「チコクヲスルナ」「ミチクサヲスルナ」

「ハヤネハヤオキ」等が多い。皆に知らせたいことや、

知つてもらひたい事を皆の目につく様に、そしてわかり

やすく書いたものであることを説明して、したがつて作

る時にも、字の配置等は適宜指導を要する。尙ポスター

の大きさは模造紙四分の一大位が適當であらう。

五、時刻しらべ(私の一日と題す)

前日に一日のお仕事やおあそびの時刻をしらべて書いて

おく事を約束する。その結果を書き表はするのであるが、

繪畫形式を多く取入れて、色々工夫させる。時計を畫き

その傍にその時刻にする事の繪を書き、その説明を書く等は自由に發展して行く。一枚の大きい紙に書くのも面白いし、とちて本の様にするのも面白い。各自の希望にまかせるが、朝から順に書くことを、特に注意し、教師は時刻を時計の針で表はす事を机間巡視の間に個人指導しなければならぬ。構圖等も、時々指導を與へる方がよい。

最後に題のつけ様に困つて相談の結果、「私の一日」と題する事になつた。

六、展覽會準備

準備に關しても、色々相談して、次の如き事項があげられた。

入場券

招待状（お母様と上級生）

「入口」「出口」「時計ノテンラン會」等のはり札、

立札（時計の説明）

夫々分擔を決めて作業にかゝる。入場券は大體の形式を決定して、各自數枚作る。招待状は母親宛に書き封筒を

こしらへて、入場券をそへて家に持つてかへる。

四八

時	六月十日九時ヨリ
テ	ニユウジヨウケン
ラ	一切一年オハヤニテ
會	

等をつくる。

七、當日役割決定、陳列

まづ展覽會の時の役割を決めておかねばならぬ。受付係（入口及び出口）説明係、整理係（會場係の意）等を希望を主として定め、何時交代するかも決めておく。徽章等を作つてつける様にすれば一層気分を出してよい。

次に何處に何をかざるかを大たい豫定して、机を總動員で移動する。そして各自定められた場所に陳列する。

その他立札、はり札等の準備をする。陳列は分類的にさせる様にし、ポスターは美的に適當な場所にはる様に指導する。

八、展覽會閱覽

自分等でかざつた展覧會を、まづ自分等で見るとして参考、反省の資とさせる。閱覽注意として次の如き事項をあげた。

1. 一々ていねいによくみることに。
2. 批評する様な氣持で見ること。
3. 徒に他と見せ合はせぬこと。
4. 靜に大切にみることに。

九、展覧會開催

各自の役割にしたがひ、位置につき、入場者を待つ、休み時間になると、急に殺到して、整理しきれず、聲を枯らしての大ききわぎである。上級男生のいたづらを留めるのには大いに苦心して、泣言さへもらしてゐた。とにかく自分の役を一生懸命にする様に注意してゐる。

さぼつたりする子のない様に。

お互に展覧會を終へてホツと一息。子供等は軽い疲労さへ覚えてゐる。

けれど、そのまゝなげやりにしたくない。とかく後片附は女中に、と云ふ子供等故、一層自分等で片付けさせ

るべきである。手早く元通りにする様、教師は先に立つてこれを指導しなければならぬ。

(4) 作業の結末、發展

翌日は昨日の展覧會の事を色々話し合ひ、出品物に對する批判、反省等をせる。教師もそれに適切なる批評を與へ次回への参考とさせる。

又展覧會の苦心談等お互に話すのも面白い。更に綴方形式で、感想發表をさせる。

それから「こしらへたこのお時計はどうしませうか」と云へば、子供等は、「時計屋さんごつこがしたい」と申出る。教師は勿論大いに賛成して、これを取上げる。時計屋さんごつこをするには、尙お金の製作、正札作り、銀行、お店の準備等の作業を經てお遊びを初める事になる。こうして作業から遊戯へと發展してゆくのである。